

研究課題名：「胃 X 線検診のための読影判定区分」を用いた技師の X 線読影精度評価

研究責任者：

宮城県対がん協会；千葉 隆士

1. 研究の対象

宮城県対がん協会です胃がん検診に従事している技師

2. 研究目的・方法

【目的】

胃 X 線検診の読影医不足は年々深刻化しており検診精度維持が困難な状況にあり、これを打開するための方法として技師による読影補助が検討されている。

読影補助導入にあたり技師の X 線読影精度を把握する必要があるが、読影精度を客観的に評価する方法はまだ確立されていない。本研究では消化器がん検診学会が対策型胃がん検診の精度管理を目的として策定した「胃 X 線検診のための読影判定区分（カテゴリー一分類）」を用いて読影精度を客観的に評価することが可能であるか検討することを目的としている。

【方法】

- 宮城県対がん協会です胃がん検診に従事している技師を対象にカテゴリー一分類に基づくカテゴリー判定を行う胃間接 X 線の読影試験を実施する。
- 読影症例は平成 26 年度から平成 29 年度の胃がん検診で精検該当となり宮城県対がん協会です上部消化管内視鏡検査を受け、既に診断の確定した既存症例から選定する。疾患は胃癌の他に潰瘍や胃炎などの良性疾患から選定する。症例選択とカテゴリー判定は対がん協会の常勤医師 2 名が合議のうえで決定する。
- 解析項目は要精検率、良性疾患の要精検カテゴリーである 3a 以上の胃癌の感度、胃癌を強く疑うカテゴリーであるカテゴリー 4 以上の胃癌の感度である。また、技師の勤続年数による診断精度の差を検討するため勤続 10 年以上の群と 10 年未満の群を比較検討する。これらの結果と医師の判定結果を比較し技師の読影精度の現状を評価する。
- 研究期間は倫理審査結果受理から平成 32 年 12 月までとする。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：胃 X 線画像、内視鏡画像など

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて受診者さまもしくは受診者さま
の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先まで
お申出ください。その場合でも受診者さまに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

宮城県対がん協会 千葉隆士、加藤勝章

〒980-0011 仙台市青葉区上杉 5-7-30

電話 022-263-1525（代表）／FAX022-262-3775